



台風が猛威を振るい、あの厳しい夏はどこへやら。拍子抜けした感じで、水遊びの季節は過ぎてしまいました。急激な温度の変化で、寝冷え、薄着などにより体調を崩しがちです。下着等を上手く活用しながら、気をつけてくださいね！

次回講座
予約開始

第2回 出産を迎える親の体験学習

離乳食講習会

ゴックン期～モグモグ期頃

日にち／ 9月25日(金)

時間／ 10:30～11:30

持ち物／室内履き・くつを入れるビニール袋

場所／第二椎の実子供の家

- 参加費無料！参加ご希望の方は、お電話ください。電話／0422-44-4103
(担当：竹内・阿部)

★ 一時預かりやっています！ ★

お仕事や、お子様を連れて行くことが出来ないお出かけの時、大人のリフレッシュ時間などご利用いただけます。

問合せ先／0422-44-4103 (担当：阿部)

2

おうちでできるモンテッソーリ教育



大事にしたい
子どもの敏感期



子どもには一人の人間として、自分で何でもしたい！という欲求があります。この欲求は生活面、学習面、感覚面、社会性など多方面に向かい、その欲求が強くなる時期を「敏感期」と言います。「敏感期」とは、生物が生まれながらに備えもった能力を発揮する限られた時期を示す言葉です。マリア・モンテッソーリは、子どもに訪れる数々の重要な敏感期を発見しました。0～6歳の子どもには、人間として大きく成長していく時期であるということを重要視しました。中でも、将来の人格や知性の土台となる発達の敏感期は3歳までにもっとも強く現れると説明しています。

この時期の子どもは、特定の行動をスムーズにかつ完全に習得できる状態にあります。適切なタイミングと環境が整っていれば、子どもは存分に必要な技能を身につけ、自信に満ちて育っていくことができるでしょう。しかし、この素晴らしい成長エネルギーも、周りにいる大人が気付かなければ消失してしまい、心身の技能を獲得する数多くのチャンスを失ってしまいます。

「敏感期」の子どもたちの姿には共通した特徴があります。

- ①卓越した集中力 ②夢中になる力を発揮する ③何度も何度も繰り返したがる
- ④「マスターした」と納得すると、その行動に興味を示さなくなる。

一方で、環境が整っていない場合には、欲求は満たされずに興味を失ってしまいます。大事な事は敏感期にある子どもをよく観察し、内から湧き出る成長のエネルギーを察知し、必要最小限のサポートを提供していくことです。

敏感期に適切なタイミングと環境によって育った子どもは、心身共に満たされ、幸福感を感じます。その満たされた心身には「自信」が育っています。そして、できるようになるまで見守ってもらえることへの安心感で、安定した心や自己コントロールも培われていきます。さらに、自分の成長が大切にされているという尊さを体感しているため、他のお友達にも同様に優しく接する「社会性」・「思いやりの心」も芽生え、次なるステージへと成長していきます。

